

## 第 13 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：令和 6 年 3 月 14 日(木) 13:00～15:00
2. 場 所：千曲河川事務所 2 階 大会議室 及び オンライン会議
3. 出席者：平林委員、豊田委員、笠原委員、北野委員、尾関委員、田端委員、傳田委員、川上委員(代理:池田氏)、是永委員、横田委員 (代理:曲淵氏)、湯本委員、堀内委員、佐藤委員(代理：矢島氏)、水澤委員、北條委員、依田委員、中根委員  
※Web 参加含む

### 【配付資料】

- ・ 議事次第、出席者名簿、座席図
- ・ 資料-1：前回検討会における意見と対応状況
- ・ 資料-2：自然再生事業の実施状況
- ・ 資料-3：令和 5 年度モニタリング調査結果報告
- ・ 資料-4：令和 6 年度整備予定箇所の掘削案
- ・ 資料-5：地域連携の取組状況
- ・ 資料-6：今後の予定
- ・ 参考資料-1：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 設立趣旨
- ・ 参考資料-2：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 規約
- ・ 参考資料-3：第 12 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

### 4. 議事概要

(凡例：「\*」 質疑、「→」 回答、「☆」 意見)

- 1) 資料-1：前回検討会における意見と対応状況、資料-2 自然再生事業の実施状況 について 特になし
- 2) 資料-2：自然再生事業の実施状況
  - \* 網掛地区では掘削土を対岸の埋め戻し土に活用していた。自然再生事業では大量の土砂が発生するので掘削土の有効活用が必要だと思うが、上徳間地区の場合は掘削土をどう活用する予定か。
  - 千曲川河川事務所の事業での掘削、民間業者の砂利採取を予定している。事務所で行う掘削については、流下能力の観点からはプラスの効果もあるので、河川外に運び出し、周辺の公共道路事業で盛土に活用したいと考えている。

☆以前はレンゲやナタネが主要な蜜源だったが、土地利用が変わり、いまはハリエンジュが大事な蜜源となった。令和元年出水のような大きな洪水があったので、河川管理側からすると河川敷の樹木は、川の流れの阻害になる存在であることは理解しているが、河川敷に繁茂しているハリエンジュは養蜂の蜜源にもなっているため、考慮いただきたい。

→ハリエンジュによる河川管理上の課題も事務所の都合もよく理解されたうえのご意見であり、相談しながら対応を実施してほしい。

### 3) 資料-3：令和5年度モニタリング調査結果報告 について

\*出水後モニタリングで、冠着地区においては令和元年出水の直前と出水後でどのように変わったのか、元に戻ったのか、そういう情報はないか。砂州に大きな変化がないのは写真でわかるが、植生やその他のデータなどでの評価はないのか。

→冠着地区においては、植生の遷移が確認されている。想定している出水による攪乱が生じていないことが、植生遷移の要因と考えられる。

→出水後の変化ではなく、出水の前と現在の状況の比較などはしていないか。

→出水前と同精度での調査・比較はできていない。

→令和元年の出水で川の中も形も全く変わったため、そのインパクトからどう回復していくのかという視点でモニタリングしている。そのため、出水以前の状況と現在の状況の比較は意味がないと考えている。長い年月をかけて作られた河川環境が、令和元年出水により大きく変化したため、その後の変化を出水後モニタリングとして実施している。仮に出水前のデータがあったとしても、出水後モニタリングの趣旨から出水以前との比較はする必要はないのではないか。上記ご指摘は、もっと10年～20年といった長期間での河川環境の変化の比較をイメージされているかと思う。

☆大規模出水後のモニタリング調査を実施していることは、日本の他の河川にもデータを活用できるため、大変重要な調査である。自然再生事業についても、施工前1年間、施工後3年間調査を実施し、整備前からの変化を把握することは、基礎データとして重要である。ぜひ、継続いただくことともに、地域の皆様にもこうしたデータを活用しながらこの地域の特徴を知っていただきたいと思います。

### 3) 資料-4：令和6年整備予定箇所掘削案について

☆横断図を見ると、中地区の左岸側の低水路は平成24年では深掘れ傾向があり、令和元年東日本台風で深掘れ箇所が埋め戻されたように思われる。低水路の変化で状況が変わる可能性があるため、河床変動計算にあたっては低水路の変化についても細かくみるとよい。

→これからの河床変動計算の予定としては、概ね10年に1回程度発生する洪水1回を対象にした計算と、10年間程度の中期的な外力を想定した計算を予定している。深掘れの変化、上下流の変化を面的に捉えて砂礫河原の維持への影響を検討したい。

#### 4) 資料-5：地域連携の取組状況について

☆水辺の楽校で実施している自然体験学習は、千曲市生涯学習課が所管する取組である。千曲川河川事務所には、取組への御協力、親水池の復旧工事等対応頂き、御礼申し上げます。本取組はH23年に開講し、毎年親水池にて魚や昆虫、植物等を採取して楽しむ自然学習を実施している。毎年定員一杯となっており、昨年イベントでは、51名の住民に参加いただいた。当日は、千曲川自然再生事業の説明から、砂礫河原におけるBiomeアプリを用いた植物・昆虫採集等の生物観察、鮎つかみ取りまで盛り込んだイベントとなっており、参加者からは満足の声を多く頂いている。安全に千曲川に親しんで頂く機会を毎年提供することができており、地域との連携・協働の機会にもなると考えているため、今後も本取組は続けていきたい。今後の取組として、取組のパッケージ化などの検討を実施しているとのことであるが、令和元年洪水で教えられた事と共に、千曲川に親しみ・学習する取組を継続していければと考えている。

→こうした形で地域と協働しながら川に興味を持ってもらえる機会を作ってきている。周辺の市町村にもぜひこのような取組を実施いただきたい。特に未来を担う子どもたちに興味をもって頂くとともに、親御さんにも現状を理解して頂けるよう、取組を活用してほしい。長野県内でもこういった子どもたちを対象とした取組を千曲川河川事務所でも実施しているので、協力頂きながら進めて頂きたい。

→生物のイベントを実施する場合、専門家の確保がネックとなることが多いが、今回はBiomeアプリを用いた工夫をしている。今後はパッケージ化などを検討してさらに展開していきたいということなので、ぜひご活用頂きたい。

☆自然再生事業以外にも、堤防強化等の環境整備の内容は周辺市町を中心に市報で紹介いただいております。治水の意義や自然再生の工事についても認知が広まってきている。今後も色々な手法で自然再生事業を紹介できればと考えている。必要な写真やデータ等の提供依頼があればお申し付け頂きたい。

\*地域協働の取組については、プレス等で取材されているか。上田市では、UCVという地元テレビ局があるため、取組を実施する際は紹介してもらえると良い取材対象になる。また、砂礫河原があまり市民に知られていないと思う、砂礫河原がどういったものかということを含めて紹介できると良い。

→千曲市主催のイベントなので、千曲川河川事務所では、プレスは出していない。

→千曲市にローカルテレビが来て、取材、放送していると思われる。

→流域に住む方々にこういった取組を実施していることを知って頂くことが重要なため、ぜひ周知して頂きたい。なお、「地域連携」という言葉があるが、「地域協働」という表現にして頂きたい。

- 5) 資料-6：今後の予定について  
特になし

以上